

大銀杏

第55号
令和6(2024)年
7月13日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
(高校)
田中湧大 植竹隼也
川村一樹 高橋航之介
古谷貴一 長谷川望人
平川慶明 高須祥栄
堀竹涼平 塩見耶摩斗
経澤悠希 稻生海風
(中学校)
中原圭太
村瀬隼 石崎航成
題字 東山右徹先生

投手好調13安打7回コールド勝利

7月10日10時、今年の夏の硬式野球部の初戦が始まった(第106回全国高等学校野球選手権神奈川大会)。

シード校である藤嶺藤沢は2回戦から出場し、等々力球場で小田原城北工高校と対戦となった。結果は11対2の大勝であった。

登板した平田選手、今泉選手、井出選手は好投し、攻撃では13安打と好調であった。次戦は、14日俣野球場10時開始予定、対戦相手は横浜翠陵、勝利を期待したい。

(投手：平田2回2安1振、今泉2回1安1振、井出3回1安3振)

(攻撃：三塁打大石2、今野、小野、二塁打吉井、小山田、単打小山田、花田、近藤3、今泉、熊谷)

(盗塁：植松、花田)

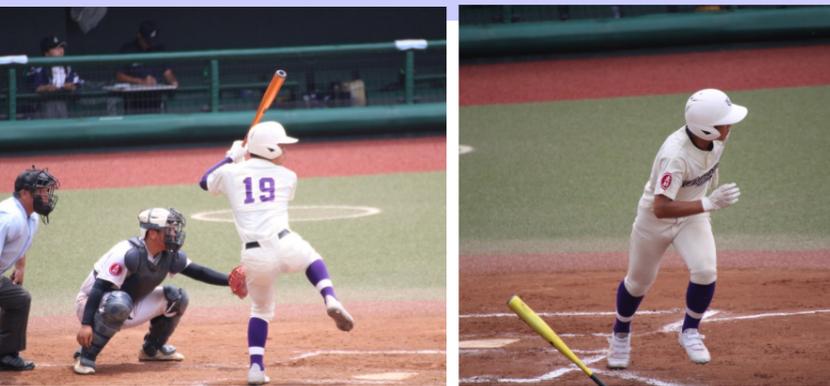
【川村 堀竹】



翌11日、主将の近藤徹平選手は「昨日の試合は自分たちの野球ができていなかった。次戦は一戦必勝、自分たちが目指してきた野球、『守り勝つ野球』を実践したい」と力強く語った。

2回戦	1	2	3	4	5	6	7	計	H
藤嶺藤沢	2	3	3	3	0	0	0	11	13
小田原城北工	1	0	0	0	1	0	0	2	4

7回コールド BATTERY：投手 平田、今泉、井出
捕手 今野、片岡



教育実習生から後輩へのメッセージ

5月24日から3週間、4名の卒業生が本校で教育実習を行った。2名の実習生からの文章を紹介する。

池田和樹先生

「変わらないもの」

3週間お世話になりました。中学で社会科を担当していた池田和樹です。私は三年前に高校を卒業したため、母校の授業風景を見るのは3年ぶりのことでした。この間、タブレット配布を皮切りにICT教育が浸透し学習・指導環境が大きく変わったことを、今回の実習で実感しました。他にも藤嶺祭と体育祭の時期が入れ替わり、放課後自習システムもバージョンアップするなど、藤嶺が目まぐるしく変化していることに圧倒される場面もありました。しかし、変わらないところもありました。

それは内外の人へ向けられる元気のいい挨拶です。特に中学と高校の間の坂で生徒の皆さんが交わす挨拶は天地に響く大きな声で、私も朝の眠気が吹き飛びました。藤嶺生の皆さんが持っている溢れんばかりのエネルギーや、誰に対しても公平に接する姿勢は、どんなに時代が変わっても通用する武器であると思います。世の流れを知りつつも、自分の行きたいゴールに向けて上手く、權を漕ぐことは難しいことです。しかし、皆さんには確実にその素質があると、突然来た実習生の授業でも熱心に聞く皆さんの姿を通じて感じました。これからの激流と上手に付き合え、目的地を目指して下さい！最後に、3週間に賜ったご厚情に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ジブリ作品を知る2

6月9日、三鷹の森ジブリ美術館に取材に行きました。そこで「この星を買った日」という短編ジブリ作品を描きながら宮崎駿さんと雑談している時に、書こうと思った絵本の話を知りました。これが「星を買った日」です。しかし井上さんは、主人公を女の子だと考えていましたが、宮崎さんは、話を聞き始めた途端に、男の子の物語だと決めてつけてしまいましたが、決めた。そのうち2人とも忙しくなり井上さんも絵本を描かなくなりました。それから2年ほどたって「ハウルの動く城」の仕事が終わったとたん、スタジオの制作に隙間ができました。美術館の映画を作るチャンスだと思っただけで、大急ぎで、と言っても随分時間がかりましたが、井上さんに内緒で、勝手に絵本を作ってしまった。もちろん、男の子を主人公にして。

それから、宮崎さんは鈴木プロデューサーに、井上さんの元へ絵本を持っていき、井上さんが喜んでくれた。制作秘話を知ることができました。

【川村】

創立一〇九周年 開校記念講演会 インタビュー 立川らく次 師匠 立川志らら 師匠

5月15日、本校卒業生の立川らく次師匠写真展(左)・立川流兄弟子の立川志らら師匠(写真右)をお招きして開校記念講演会が行われた。前号で落語会の様子や会後のインタビューの前半を記事にした。本号では落語や学生時代についてのお二方の熱い思いを掲載したい。

記者「今日の宮戸川の落語について教えてください」

志らら「めおと、めおとと、古典落語にはない。落語、遊んでいる間に、おじさんがはしゃいだら、面白く思っています」

らく次「志らら師匠のオリジナル」

志らら「めおと夫婦、ラブ、ラブはウケると思うけど、めおと・めおとという言葉で、男と女が一緒になる、ということ。めおとはいける、と、今日の判断」

らく次「僕が、宮戸川をやるときは、御婆さんにもって話させたりする、演者に落語は変わる。この点が落語の面白さ」

志らら「わたしのようにはポップにやるのを嫌う人もいます」

らく次「二回の質問は、男子校のよいとこは」

記者「女子の目を気にせずには爆ぜるところです」

志らら「俺も別学男子校だったんだけど、たのし

かったなあ」

らく次「二の学校で慣れちゃうと女子がいないのは当たり前なんだけど、たまには女子と話したいと思ってる」

記者「どうでしょうか」

志らら「俺、別学出身で私立文系の授業だと女子もいて、その女子のうちの一人と塾も一緒で、バスで隣に座ることもあって、そしてららしくして、その女子の友達から『志らら君、〇〇さんをストーカーしてる』と女子間で話題になっていて、と聞いて、何の策も俺にはなかったから、バスの中で挨拶程度はしていたけど、その話を聞いて驚いた」

には乗らない」

記者「二の質問はいいですか、好きな演目はありますか」

志らら「いい質問だね。好きな演目は、俺は、先輩(志らら)師匠の落語をいっぱい聞いてからわかるんだけど、この方が得意な演目、困っている人が出てくる落語、今日で言えば、はちやん困っているんだよね。困っている人が出てくる落語はもの凄く面白いんだよ。困った状況を打開しようとする登場人物が、ご本人の個性にぴったりに合っていて、すごくいいんだよ」

志らら「トラブルが大好きだから。追い込まれている人と追い込む人が大好きだから」

らく次「追い込む人の方も面白んだよ」

志らら「しみみりする落語は、なかなかできない。笑いが欲しくなるし、一波乱起こしたくなる。パニック

な演目ね、俺はない。その時々でやりたい演目はちがう。あまり同じ斬をするとか飽きるもあるけど、何回同じ斬をしていても飽き

ないものもある。いろいろなか、楽しいから」

らく次「上手にお客さんに伝えられている」

志らら「らく次さんは？」

らく次「今日の死神も好きだね。明治時代の作品で、シェイクスピアとかから取ってたりしている。死神はもともと西洋の話。日と笑うというのが一番の目的だから。例えば歌舞伎は笑わなくても、綺麗だとか昔はこういう動きをしてたんだとかかわかる。そういうものを楽しむ伝統芸能だけれど、落語は会話の芸能。伝統芸能の中でも落語は違う。落語は変わっていくもの。新陳代謝がよい意味でも悪い意味でもあって、凄く芸能だという気がします。」(次号に続く)

【川村 古谷 平川 村瀬 石崎】

た。坂井大悟先生

自分は今、理系の大学に通っていて、そこで学び、友達と交流を深め、自由な時間ではバイトしたり自分の趣味に没頭したりと充実した生活を送っています。今の生活は悪くないのですが、強いというなら受験の時の後悔が今も残っているという事です。もっと多く勉強していれば、あそこでサボらなければもっと上の大学を目指せたかもしれませぬ。勉強だけでなく日常生活における後悔もあります。それは皆さんも経験しているはずで、自分は、皆さんには「悔いのない選択」をして、できるだけ後悔のないようにして欲しいです。そのためにも、自分でできることは何か考えてみて下さい。きっと皆さんが皆さんのよい未来に繋がります。

きな演目ね、俺はない。その時々でやりたい演目はちがう。あまり同じ斬をするとか飽きるもあるけど、何回同じ斬をしていても飽き

ないものもある。いろいろなか、楽しいから」

らく次「上手にお客さんに伝えられている」

志らら「らく次さんは？」

らく次「今日の死神も好きだね。明治時代の作品で、シェイクスピアとかから取ってたりしている。死神はもともと西洋の話。日と笑うというのが一番の目的だから。例えば歌舞伎は笑わなくても、綺麗だとか昔はこういう動きをしてたんだとかかわかる。そういうものを楽しむ伝統芸能だけれど、落語は会話の芸能。伝統芸能の中でも落語は違う。落語は変わっていくもの。新陳代謝がよい意味でも悪い意味でもあって、凄く芸能だという気がします。」(次号に続く)

【川村 古谷 平川 村瀬 石崎】

た。坂井大悟先生

自分は今、理系の大学に通っていて、そこで学び、友達と交流を深め、自由な時間ではバイトしたり自分の趣味に没頭したりと充実した生活を送っています。今の生活は悪くないのですが、強いというなら受験の時の後悔が今も残っているという事です。もっと多く勉強していれば、あそこでサボらなければもっと上の大学を目指せたかもしれませぬ。勉強だけでなく日常生活における後悔もあります。それは皆さんも経験しているはずで、自分は、皆さんには「悔いのない選択」をして、できるだけ後悔のないようにして欲しいです。そのためにも、自分でできることは何か考えてみて下さい。きっと皆さんが皆さんのよい未来に繋がります。

た。坂井大悟先生

自分は今、理系の大学に通っていて、そこで学び、友達と交流を深め、自由な時間ではバイトしたり自分の趣味に没頭したりと充実した生活を送っています。今の生活は悪くないのですが、強いというなら受験の時の後悔が今も残っているという事です。もっと多く勉強していれば、あそこでサボらなければもっと上の大学を目指せたかもしれませぬ。勉強だけでなく日常生活における後悔もあります。それは皆さんも経験しているはずで、自分は、皆さんには「悔いのない選択」をして、できるだけ後悔のないようにして欲しいです。そのためにも、自分でできることは何か考えてみて下さい。きっと皆さんが皆さんのよい未来に繋がります。



らく次「二回の質問は、男子校のよいとこは」

記者「女子の目を気にせずには爆ぜるところです」

志らら「俺も別学男子校だったんだけど、たのし



きな演目ね、俺はない。その時々でやりたい演目はちがう。あまり同じ斬をするとか飽きるもあるけど、何回同じ斬をしていても飽き

ないものもある。いろいろなか、楽しいから」

らく次「上手にお客さんに伝えられている」

志らら「らく次さんは？」

らく次「今日の死神も好きだね。明治時代の作品で、シェイクスピアとかから取ってたりしている。死神はもともと西洋の話。日と笑うというのが一番の目的だから。例えば歌舞伎は笑わなくても、綺麗だとか昔はこういう動きをしてたんだとかかわかる。そういうものを楽しむ伝統芸能だけれど、落語は会話の芸能。伝統芸能の中でも落語は違う。落語は変わっていくもの。新陳代謝がよい意味でも悪い意味でもあって、凄く芸能だという気がします。」(次号に続く)

【川村 古谷 平川 村瀬 石崎】

た。坂井大悟先生

自分は今、理系の大学に通っていて、そこで学び、友達と交流を深め、自由な時間ではバイトしたり自分の趣味に没頭したりと充実した生活を送っています。今の生活は悪くないのですが、強いというなら受験の時の後悔が今も残っているという事です。もっと多く勉強していれば、あそこでサボらなければもっと上の大学を目指せたかもしれませぬ。勉強だけでなく日常生活における後悔もあります。それは皆さんも経験しているはずで、自分は、皆さんには「悔いのない選択」をして、できるだけ後悔のないようにして欲しいです。そのためにも、自分でできることは何か考えてみて下さい。きっと皆さんが皆さんのよい未来に繋がります。

きな演目ね、俺はない。その時々でやりたい演目はちがう。あまり同じ斬をするとか飽きるもあるけど、何回同じ斬をしていても飽き

ないものもある。いろいろなか、楽しいから」

らく次「上手にお客さんに伝えられている」

志らら「らく次さんは？」

らく次「今日の死神も好きだね。明治時代の作品で、シェイクスピアとかから取ってたりしている。死神はもともと西洋の話。日と笑うというのが一番の目的だから。例えば歌舞伎は笑わなくても、綺麗だとか昔はこういう動きをしてたんだとかかわかる。そういうものを楽しむ伝統芸能だけれど、落語は会話の芸能。伝統芸能の中でも落語は違う。落語は変わっていくもの。新陳代謝がよい意味でも悪い意味でもあって、凄く芸能だという気がします。」(次号に続く)

【川村 古谷 平川 村瀬 石崎】

た。坂井大悟先生

自分は今、理系の大学に通っていて、そこで学び、友達と交流を深め、自由な時間ではバイトしたり自分の趣味に没頭したりと充実した生活を送っています。今の生活は悪くないのですが、強いというなら受験の時の後悔が今も残っているという事です。もっと多く勉強していれば、あそこでサボらなければもっと上の大学を目指せたかもしれませぬ。勉強だけでなく日常生活における後悔もあります。それは皆さんも経験しているはずで、自分は、皆さんには「悔いのない選択」をして、できるだけ後悔のないようにして欲しいです。そのためにも、自分でできることは何か考えてみて下さい。きっと皆さんが皆さんのよい未来に繋がります。

た。坂井大悟先生

自分は今、理系の大学に通っていて、そこで学び、友達と交流を深め、自由な時間ではバイトしたり自分の趣味に没頭したりと充実した生活を送っています。今の生活は悪くないのですが、強いというなら受験の時の後悔が今も残っているという事です。もっと多く勉強していれば、あそこでサボらなければもっと上の大学を目指せたかもしれませぬ。勉強だけでなく日常生活における後悔もあります。それは皆さんも経験しているはずで、自分は、皆さんには「悔いのない選択」をして、できるだけ後悔のないようにして欲しいです。そのためにも、自分でできることは何か考えてみて下さい。きっと皆さんが皆さんのよい未来に繋がります。